

第15回

「議論の十字路、百万遍」

百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。

あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近はコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっているようです。

そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。

毎回のテーマに関して、あらかじめ知識が必要となるわけではありません。唯一お願いするのは、毎回提示される「書物」あるいは「短文」を読んできること、それだけです。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。気軽な気持ちで参加してください。

いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

話題提供者 宇佐美 文理（文学研究科 教授）

テーマ 痛みの共有

会場 清風荘（重要文化財／30分見学ツアー付）

今回は上記のテーマについて、ともに考えてみたいと思います。
テキストは下記QRコードの申込フォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

主催：京都大学 学術研究展開センター（KURA）
場所：清風荘（京都市左京区田中関田町2-1）
対象：京都大学学部学生（正規生）先着10名
使用言語：日本語 | 費用：無料
申込方法：右記QRコードよりお申し込みください
<https://forms.gle/JgSnx8XX6Gx8vJeN6>



【お問い合わせ】
京都大学 学術研究展開センター（KURA）



「百万遍談議」担当
jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp

★これまでの開催記録はこちら
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/gakusai/dangi/>



京都大学



2024.3.22 [FRI.]

15:00—17:00

2024年3月22日
百万遍談議 開催報告

第15回 痛みの共有

話題提供者

宇佐美 文理 文学研究科 教授

参加者：8名

[内訳]

12回生3名（文学・経済・農学）

3回生4名（法学・教育各2名）

4回生1名（総合人間学）

談議メモ

今回は今年度最終回ということもあり、特別に本学所有の重要文化財である清風荘にて実施しました。

架空の国家「Q国」にて、医学生が患者の病気による痛みを理解するために開発されたある装置が刑罰にも応用されようとしている状況——「目には目を」というハンムラビ法典の直接的応用——が綴られた使用テキストをもとに、談議は冒頭から「同じ痛み」とは何を意味するのか、という問いに集中しました。

「痛み」と一言でいえども、「そもそも心と身体の痛みは異なる」「個々人や文化的背景によっても痛みの感じ方／ラベリングの仕方が異なるため、数値化や再現は容易ではない」といった意見が優勢であり、他方で刑罰の観点から、遺族の痛みの追体験を可能にし得る法律の可否をめぐる問題提起がなされる場面もありました。

中盤には、対話が深まるにつれて、環境問題や飢餓に苦しむ人々の痛みを踏まえ、「そうした社会課題解決のための活動に反対する人がいれば、くだんの装置で刑罰を与えることは可能か」といった問いも飛び出し、それに対しては「あまりに暴力的であり、行為者の意思選択の権利も重要だ」「当事者意識が発達しすぎると息苦しさの原因になるのでは」といった意見が投げかけられました。

終盤、痛みの当事者という観点からは死刑にも話題が及び、「当事者（死刑囚）だけでなく死刑執行人もまた痛みを感じているのでは」という問いかけから、よりテーマを俯瞰するかたちで、痛みや死をめぐる自己と他者の線引きに関しスリリングな話が展開されていく場面も。会場の特別感も相俟って、終始、盛り上がりを見せた回となりました。